

	– C	0	N	Τ	Ε	Ν	Τ	
平成21年度	ORD紙	会開	見催囚	ひ記	靖演会	<u>></u>		1
新会員紹介	イツワ	商事	(株) …	•••••				2
新会員紹介	㈱昭電	}		•••••				3
製品開発委員	会活動	報告	-	•••••				4
技術促進委員	会活動	報告	-	•••••				4
								4
事務局より…								4

編集:企画広報部会 事務局:〒538-0044 大阪市鶴見区放出東1丁目10番25号(奥野製薬工業(株) 企画開発部内)
TEL 06-6961-0886 http://www.ord.gr.jp

平成21年度 ORD総会開催及び講演会

平成21年6月2日、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)におきまして平成21年度ORD総会及び総会に引き続き、産業技術総合研究所ユビキタスエネルギー研究部門電池システム研究グループ長(神戸大学併任教授)境哲男氏に「電気自動車の将来」というテーマでご講演頂きました。

まず始めに、ORD総会におきましては奥野代表幹事の開会挨拶に引き継ぎ、ご来賓を代表して大阪府商工労働部商工振興室経営支援課長児島和彦様よりご挨拶を頂きました。

挨拶に引き続き奥野代表幹事を議長に選出し、総会議事を審議頂きすべての議案について承認を得ました。また、部会・各委員会の今年度活動方針は、手許資料を参照して頂く事で無事終了致しました。



【総会議事】

議案1. 平成20年度事業実績及び収支報告

議案2. 平成21年度事業計画及び収支予算

議案3. 平成21年度役員の選任

議案4. 名称変更等を含め、一部規約改定

【報告】

- ・部会、委員会の統合について
- ・平成21年度部会、委員会の活動方針

総会終了後、境哲男氏より「電気自動車の将来—二次 電池の開発戦略—」というテーマでご講演頂きました。

講演内容につきましては、昨秋のリーマンショック以降、特に自動車産業に支えられてきた日本経済は、大変な不況に突入致しました。日本政府は経済の建て直しを







計るべく、エコカー減税を打ち出し、ハイブリッド車・燃料電池車・電気自動車が環境問題ともリンクして注目を浴びる中、特に電気自動車に使用される二次電池の話

を伺う事ができました。 概略は以下の通りです。

- ①新電池開発は、携帯電 話の小型化が先導
- ②環境問題における環境 対応車(電気自動車・ ハイブリッド自動車・ 燃料電池ハイブリッド 車・プラグインハイブ リッド車)への優遇政策
- ③環境問題が家庭用燃料電池の普及に拍車をかける
- ④電池技術の研究開発が、人と環境に優しい調和のと れた社会の実現に貢献

境哲男先生、大変貴重なご講演を有難うございました。

ご講演後、交流会を行い情報交換など有意義な時間を過ごし、大変価値ある総会となりました。

松浦 勲(記)/ラミネート工業(株)

●会 社 紹 介 ▶

イツワ商事株式会社

代表取締役 桑原 豊



創業

イツワ商事の発祥は、1931年非鉄金属問屋・角野商店が現在の大阪市上本町西1丁目(当時は南区上本町2丁目)において開業したことに始まります。その後1953年に上二工業株式会社と法人改組。その後1981年に上二工業貿易部をイツワ商事株式会社として創業しました。

最初の仕事は、1台のタイプライターを台湾に輸出する依頼があり、その仕事がお客様の予想以上に"速く、安く、うまく"できたことにより、お客様の信用を獲得し、仕事が徐々に増えていきました。 現在では年間売上高が240億円となる企業となりました。

国内販売製品

当社は家電量販店様への卸業務により、売上高上位10社の全ての家電量販店様と口座を取得しております。これは平成8年、1人の若手社員のアイデアで携帯電話のアクセサリーを扱うことからでした。

当時、携帯電話市場が拡販される時代にのり、携帯電話アクセサリーの販売量もウナギ登りで、大手量販店様と取引が開始されました。アイデア次第で、「隙間商品」もヒット商品になるということの証明となりました。その後仕入れた商品を売る「卸」から「メーカ」へ"収益構造の変革"を合言葉に始まった「自社製品開発」プロジェクト。第一号の開発商品である簡単電話機「EASY PHONE」は初年度で7万台を出荷するヒット商品となりました。商社としての情報力、調達力、調査力を資源として活用し、海外とりわけアジアにおける弊社ネットワークを駆使して開発したもので、お客様には"流行に左右されない商品"との評価を頂いております。

お客様である家電量販店が必要としているものは、何か。市場が求めるものは何か。そこを研究して、商社としてのノウハウをクロスさせたところに成功事例が生まれました。"イツワだからこそ""イツワしかできない"商品開発。今後は家電量販店様以外の販売チャンネルも開拓し、新規商品の開発にも積極的に取り組んでいます。最新のオリジナル商品は、個人情報保護法の施行により、需要のあるシュレッダーを開発し、9月に販売予定です。



会員企業の皆様でで、 商品力のある商材に展開することをごをがられているのなられているのなられているのない。 度で、選絡では、展開されているのない。 検討を検討させて、 後討を検討させて。 きたいと思います。

シュレッダーのパッケージ

貿易輸出入業務、製品

当社の部材開発や調達のめぐるニーズは多様です。そこには 多くのキーワードがあります。

「ネットワーク」、「ローコスト」、「タイムリー」、「セイフティ」「ファシリィティ」・・・。それらはすべて、"顧客満足"を実現するために私達自ら課したテーマでもあります。

当社にはこれまでアジア全域をカバーする情報力、調査力で築いてきた実績があります。とりわけ誇れるのは、材料の調達だけ

でなく、「アッセンブリー」や「EMS」など多彩なサービスを企画提案・実現し、それをノウハウとして確立してきたこと。これからも自らを"企画提案型商社"と位置づけ新しいサービスを提供し続けます。

そして日本の高い技術商品を、海外へ紹介し、品質の良い、低価格商品を日本に紹介するビジネスモデルで企画提案を行い続けます。

現在取り組んでいますのは、環境と健康に配慮した新開発の商品であります「サーモロン™」というフッ素に代わる非粘着性のセラミックコーティング剤です。Thermolon社の協力の下、日本企業様への販売を促進しております。2005年、アメリカ合衆国環境保護庁庁(EPA)により「フッ素樹脂コーティングは発ガン性の可能性が高い」と発表されて以来、そ



サーモロン™のロゴマーク

の危険性が大きく叫ばれており、環境配慮型のコーティング剤が 求められております。「サーモロン™」は優れた非粘着性を持ちな がら、過フッ素化合物PTFE・PFOAを全く含まない無機のセラミ ックコーティング剤です。

そして更に、こちらも環境に配慮し、小型化を実現した新開発の商品である「焦電性結晶式オゾン発生装置」です。この商品は国立大学法人京都大学と学校法人同志社大学及びJOHNAN(株社による産学協同開発商品であり、次世代のオゾン発生装置として現在販売を促進しております。従来のオゾン発生装置と比較し、小型化・軽量化・省エネ・安全性という点で長所を持ち、各メーカー様のご期待にお応えできる商品です。オゾンは濃度により、危険な物質ともいえますが、発生量をコントロールすることにより非常に便利な物質でもあります。今後、家電機内の消臭・殺菌という分野で活躍できるものと確信しております。

是非、ご興味のある会員様はご連絡をお願い申し上げます。 一緒に日本の高い技術を、世界に売り込みをかけましょう。また海 外商品、部材を一緒に日本に輸入、調達のお手伝いをさせて頂 きます。

「満足 |を超えた「感動 |を

イツワ商事はどんな会社か、と問われたら"感動を生み出す"会社です、と答えます。

「感動の波紋」。この一言に当社がめざす姿が凝縮されます。 商社という業態を通じて、「満足」を超えた「感動」を共有したい。 そのために心身を健全にして、仕事に徹し、経営資源の全てをこ の一点に集約します。

当社が提供する情報・製品・サービスから感動の波紋が広がり、 その連鎖がやがて波となり、巨大なうねりと成長していく。すなわ ち、「感動の共有」です。当社の、企業としての目標も価値もここに あると考えます。

ヒトとヒト、ヒトと企業、企業と企業の間に、"感動の架け橋"をかけること。

それは日々進化し刻々変化する時代にあって、時流に流されない ための行動理念であり、飛躍し続けるための礎です。感動創造 企業のイツワをよろしくお願い申し上げます。

● 会 社 紹 介 ▶

株式会社昭電

代表取締役社長 太田光昭



昭電は「情報化社会に安全と信頼を提供する」をキャッチフレーズに掲げて、雷や地震などの自然災害から通信ネットワークを護る製品やサービスを提供しています。雷害対策事業では、世界最新鋭の雷インパルス試験設備を導入し、電源用・通信用避雷器(SPD)の開発から設計・製造を行っております。地震対策事業では国内最大級の三次元地震波発生装置により評価・検証した耐震・免震技術を有する製品を提供しております。近年では通信ネットワーク事業にも積極的に取組んでおり、FTTHに欠かせない製品の開発・製造からネットワークの構築・運用・保守までお客様のニーズにお応えいたします。



■雷害対策事業

昭電の雷害対策は1971年に電気事業連合会の電力用規格D-205認定メーカーになったことが始まりです。このとき開発したSPD(避雷器)は1972年に日本電気協会の電力保安通信規定にも認定されました。以



電源用SPD

来、各電力会社、通信会社、鉄道会社、建設会社など多くの実績と信頼を得てまいりました。近年、雷害対策製品の需要が増えております。オフィスや工場・家庭で使われている家電製品やコンピュータは集積回路(IC)を使用しているため、雷サージに非常に弱く、耐圧破壊を起こしやすくなっております。さらに近年のネットワーク化により電源線以外にも電話回線、制御回線などからも雷サージが侵入してくるため事態が深刻化しております。そ



通信用SPD

のため、雷による被害は『財物損害』以外に『休業損害』も増えており、これらの被害総額は年間約2000億円とも言われています。

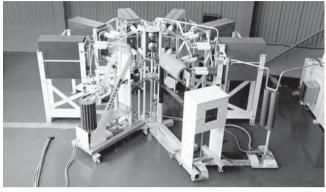
このような現状を踏まえて昭電は雷の大電流に耐えうる電源用SPDや通信用SPDを開発するために各種雷インパルス発生装置を導入いたしました。千

葉市にあるテクノセンタに導入した世界最大の電流200kA $(10/350\mu s)$ を発生できる雷インパルス電流発生装置もその一つです。この試験装置を導入することで直撃雷を想定したJIS 規定の最大電流値200kAまで発生が可能で、各種SPDの評価・検証試験を行っております。

また、2000年に一般民需向けの雷害対策製品として開発したサンダーブロッカーはグッドデザイン賞を受賞し、一般家庭以外にもオフィスや工場で多くの実績を頂いております。

その他、落雷による雷電流を安全に大地へ放流するための外部雷保護システムや接地抵抗を低減するU·MF式深埋設接地工法などお客様の雷害対策をトータルサポートいたします。





■协震対策車業

200kAインパルス電流発生装置

昭電の地震対策は1970年にダクトフロアの耐震工法を開発して東京電力株式会社に納入したことから始まります。以来、1978年に機械室の耐震設備として耐震架フレームを開発し、さらに1986年に開発したSD式免震装置はオーム技術賞・渋澤賞を受賞するなど優れた耐震・免震工法の地震対策製品を数多く製造・販売しています。その中でも免震装置「SD-5 typeII」は阪神・淡路大震災クラス(震度7相当)の揺れを安全なレベルまで減衰するためサーバールームや機械室の地震対策として多くの実績を得ています。本製品は千葉県香取市にある成田工場に導入した国内最大級の三次元地震波発生装置による加震試験も行っており、阪神・淡路大震災をはじめ、十勝沖地震や新潟県中越地震等の地震波でも実証確認済みです。その他、東京都庁にも採用されている床免震システムや19インチラック用耐震フレーム、フリーアクセスフロアの耐震工法などお客様のニーズに応じた地震対策をご提供いたします。



三次元地震波発生装置 免震装置 SD-5 typeII

■通信ネットワーク事業

昭電の通信ネットワークは光ファイバの接続や分岐に必要な光配線盤・クロージャなどFTTHの安定運用に欠かせない製品の開発・製造を行っています。また、音声・映像などを統合・管理するIPネットワークシステムや顧客満足度の向上に必要なコールセンターシステムの構築・運用・保守までお客様の要望にお応えいたします。

「新製品開発委員会」の発足と今後の活動について

去る6月2日開催の「大阪府研究開発型企業振興会(ORD)」総会 において、従来の「製品開発委員会」と「ソフトビジネス委員会」の 統合が決定し「新製品開発委員会」として再発足することになりま した。委員長としての重責を背負いながら当委員会の運営活性化 には常に気を遣っておりますが、なかなか思うような成果に結びつ かず申し訳なく思っております。総会において21年度の当委員会 の活動方針の概要については既に報告致しておりますが、今年度 は、基本的には前年度実施した行動計画に準拠する一方、企業 実務に相応しい「勉強会」「講演会」の開催および他の委員会と の接点つくりに注力し、各委員会の行事・イベント等への相互参画 や相互の情報交換により横断的な関係強化を目指したいと考えて おります。4月には「総会及び例会」を6月には「例会及び講演会」 を開催し「21年度運営委員の選任」「21年度の行動計画と予算 審議・承認」「日帰研修の訪問先及び日程の審議・承認」更には元 「ソフトビジネス委員会」のメンバーであった(株)ホットラインの公認 会計士・税理士細川正直氏による「後継者問題の成功及び失敗 の事例研究について」 の講演会を開催致しました。当日は出席の企業経 営者の方々共通の関心 事でもあって、皆さん熱



心に耳を傾けられ、そのあとの懇親会においても有益な意見交換が交されて、それ相応の成果があったと喜んでおります。当日は他の委員会の方も参加頂き、有意義な会合となりました。ORDの参加企業数も毎年に減少の傾向が続いており、その"歯止め"及び新会員の増強の為にも、いろいろ困難な問題はあると思いますが事務局を中心にして、大阪府当局との連携を密にして会員間への有益な情報提供等に一層注力し、名実ともに"ORDの一体化"を希求するものであります。何分にもORD2年目の新人であり、不案内なこと多くご迷惑おかけしますが、本年度も引続き昨年以上のご支援ご協力を賜りますようお願い申しあげます。

藤川儀夫(記)/FBJ JAPAN(株)

技術促進委員会「見学会」レポート

日時:2009.6.12.(金)

場所:パナソニックエコロジーセンター株式会社、株式会社岡田金属工業所

今年度より、旧ベンチャー21と旧技術交流委員会が合併し、技術促進委員会となって初めての見学会となりました。初夏の暑い中、総勢17名にて旧大阪郵便局前よりバスにて出発し、兵庫県加東市のパナソニックエコロジーセンター株式会社様を訪問し、昼食をはさんで、兵庫県三木市の株式会社岡田金属工業所を訪問いたしました。

パナソニックエコロジーセンター株式会社様は、2001年の家電リサイクル法の施行に合わせて設立されたそうです。ここでは、対象商品である(1)ブラウン管テレビ、(2)電気冷蔵庫、(3)エアコン、(4)洗濯機、をすべて分解し、原材料をチップ状に分別します。ただし、実装基板は外注に出されるそうです。簡単に分別の方法を説明すると、下記表になりますが、分別された材料の再生用途は、原則、同じ物を製造するのに使用するそうです。

	第1工程	第2工程	第3工程	第4工程	第5工程	第6工程
TV	手で外	ブラウン管 をはずす	丸ごとな	鉄を分別する電磁石を用いて粉砕物から	ティック類に分別するを用いて銅、アルミ、ブラスを用いて銅、アルミ、ブラス残粉砕物から遠心分離機	数種類に分別する水等を用いて比重別にプラスティック類を
冷蔵庫	手で外板等を分解する	フロンを 抜く	丸ごと粉砕する大きな粉砕機で			
エアコン	分解す	フロンを 抜く				
洗濯機	る	塩水を 抜く				

工場見学者は小中学生が多いとのことで、工場内の説明パネルを始め、非常にわかりやすく、また、廃棄再生工場にもかかわらず大変清潔でありました。今後の対象品目の展開としては、レアメタルの多い携帯電話などが注目されているそうです。いずれにせよ、環境の面から真摯に取り組まなければならないのはもちろんですが、原材料を輸入に頼っている日本としては是非、ビジネスとして成り立つようにしなければならないと感じました。

午後より訪問しました、株式会社岡田金属工業所様は、「ゼットソー」ブランドで有名な換刃式手引きのこぎりを昭和18年より製造販売をされております。岡田金属工業所様が大きく飛躍されたきっかけは、(1)換刃式にしたこと、(2)刃全体の金属部



分ではなく刃先だけに超音波焼入れを可能にしたことだそうです(これにより刃全体は弾性を持ち割れにくくなる)。これらのことは、今日では当たり前のことですが、いずれの工夫も日本の関西の企業である岡田金属工業所様がされたと知り、驚きました。また、近年、プロ向けは手引きのこぎりから電動工具にシェアを脅かされているとの事ですが、一般ユーザーの日曜大工等の市場に注目し、「手でつくる楽しさ」を知ってもらうために、地元で平成18年に「木工応援館」を開館し、人気を博されているそうです。常務取締役の岡田様に案内



していただいたのですが、端々に手引きのこぎりへの愛情を感じさせる工場見学会でした。また、記念品として、「万能のこぎり」を頂き、参加者一同、ゼットソーファンになると共に日曜大工に目覚めそうな気配でした。

最後に、大変お忙しい中、パナソニックエコロジーセンター株式会社 技術スタッフ 中川様、株式会社岡田金属工業所 常務取締役 岡田様をはじめ、ご対応していただきました皆々様に感謝いたしますと共に、ますますのご発展とご多幸をお祈り申し上げます。

伊場田晶(記)/ 旭テック(株)

事務局長就任挨拶

ORD事務局長 佐藤晴央

この度、堀畑享嗣氏の後を受け6月2日の総会においてORD事務局長を引き受けさせて頂きました。ORD事務局も昨年夏に大阪府産業振興機構から奥野製薬工業(株)内に移転し、さらにこの四月に事務局の実質的な事務を担当しておられた松村宗順氏の急な退職と続けさまに事務局内に於いて混乱が生じ、会員の皆様には多大なご迷惑お掛けし申しわけありませんでした。私は、ORD会員として、創立間も無い頃より参加させていただき、20年以上皆

様とお付き合いさせていただいてまいりました。一昨年所属会社を退社し、二年間ほどブランクがありますが、この度奥野代表幹事のお勧め頂きORDのお世話をさせていただく事になりました。今までは、事務局に対し無理な依頼ばかりお願いしてきた立場から、皆様のお世話をする立場へと180度の転換ですが、お引受けさせていただいた以上は精一杯勤めさて頂きますので、今後とも会員皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

事務局から

ORD事務局が再び移転しました。同じ奥野製薬工業㈱放出第一工場企画開発部内(大阪市鶴見区放出東1-10-25)に変わり、事務局担当も佐藤晴央になりました。ご不便をおかけしますがよろしくお願いいたします。

事務局長 佐藤 晴央

新事務局

場 所:鶴見区放出東1丁目10番25号(奥野製薬工業(株) 企画開発部内) 事務局長:佐藤 晴央 〒538-0044

話:06-6961-0886 (090-5251-3874)

ファックス:06-6963-0740 メールアドレス:h-sato01@okuno.co.jp